Does staged surgical training for minimally invasive esophagectomy have an impact on short-term outcomes?

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石山, 廣志朗 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002839

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2552 号

Does staged surgical training for minimally invasive esophagectomy have an impact on short-term outcomes?

段階的な手術トレーニングは低侵襲食道切除術の短期成績に影響を与えるか？

石山 廣志朗（いしやま　こうしろう）

博士（医学）

論文内容の要旨
食道癌は他の消化器癌と比較して発生頻度は低いが、食道に隣接する心大血管や気管は容易に合併切除することが困難であり、よって手術難易度は高くなる。このように低頻度かつ高難度手術において、手術トレーニングシステムを確立することは重要である。当科では、2016 年から食道外科修錬医に対して標準化された低侵襲食道切除術(MIE)を段階的に習得できるトレーニングシステムを導入してきた。本研究では MIE に対する短期成績を修錬医と指導医で比較検討した。2016 年から 2018 年までに施行された 308 例の MIE を対象とした（指導医群 156 例，修錬医群 152 例)。患者背景では stageIII 以上の進行癌が指導医に多かったが（指導医５２％，修錬医３６％，P=0.003)、術後合併症に差はなかった（肺炎：11% vs 18%，縫合不全：11% vs 13%，死亡率：0.6% vs 1.3%)。また２群間でリンパ節郭清個数（20 個 vs 17 個）や R0 切除率（94% vs 91%)に有意差はなかった。しかし、修錬医では胸部手術時間が長く（143±34 分 vs 190±28 分 P<0.001)，出血量が多かった（93ml vs 183ml P<0.001)。以上の結果から、段階的な教育プログラムを用いた手術トレーニングシステムの管理下においては、修錬医が実施した MIE は手術時間が長い傾向にあったが、術後合併症について指導医群と同等であり短期成績に負の影響を与えなかった。